

# 福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	2016年度学術委員会学術検討小委員会西村ユミ氏講演会報告：学術活動
Author(s)	佐藤, 郁美
Citation	福島県立医科大学看護学部紀要. 19: 19-19
Issue Date	2017-03
URL	<a href="http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/563">http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/563</a>
Rights	© 2017 福島県立医科大学看護学部
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-06-17T17:33:47Z

# 学 術 活 動

## 2016年度 学術委員会学術検討小委員会 西村ユミ氏 講演会報告

学術検討小委員会委員 佐藤 郁美

2016年度の学術検討小委員会の主な活動は、看護学部教員の研究活動の活性化を図るため、今後の補助事業の検討と、外部講師を招聘しての講演会の開催であった。以下、西村ユミ氏（首都大学東京教授）による講演会について報告する。

テ ー マ：現象学的看護研究：記述から実践へ

講 師： 西村 ユミ 氏

日 時：平成28年9月9日 14時～15時30分

場 所：看護学部棟S601教室

参 加 者：看護学部教員，附属病院看護師，大学院生  
33名

### 〈講演内容〉

現象学とは、習慣化していることを捉え直すなど、経験しているがはっきりと自覚していないことを探求するものである。これまで積み上げられた知見の上に新たな問いを立てるといよりも、捉え直しが求められる課題に対して行われる研究であり、現象学的思考で物事を考える場合、科学的研究の価値観や世界観を一度疑ってみる必要がある。

現象を捉えるときに、自分と他者を分けて考えることはできるのか。例えば、「目が合う」という現象を説明するとき、相手の意識が自分に移っていることがわかって初めて「目が合った」と確認できる。同じように臨床でも、看護師と患者ははっきりと分けられるという考えでは説明のつかないことがある。意識障害の患者は、意識障害という定義上では看護師の働きかけに応答しないはずであるが、臨床の場では患者が応答しているように見える現象がある。そのような現象を探るためには、「植物状態患者」というレッテル、植物状態患者が他者と関係を持っていないという医学的定義、看護師の知覚した出来事に対する客観的な根拠などを全て棚上げし、看護師の経験そのものから探っていく必要がある。

また、現象学的思考を用いる場合、何を捉え直す必要があるのかを明確にすることが大切である。ある問題が、科学的思考、心理学的思考でも解明できない場合に現象学的思考が有効となる。行おうとする研究が今までの研究の上に積み上げていくものであるならば、捉え直しを

する必要がなく、現象学的思考は用いることはできない。

具体的な研究方法としては、現象学的思考の下では参与観察は調査者も事象の生成に関与し、対話式インタビューではインタビュアーとインタビュイーとで語りを生成していると考えられるため、どちらか一方のみの分析ではなく、双方を分析する必要がある。

### 〈質疑応答〉

Q：他領域の先生にも研究についての理解を求めるとはどのようにしたらよいか。

A：科学的根拠を求める研究、分析者の物の見方や考え方が反映してはいけない研究に関しては実験的な操作を行う。しかし、看護は操作をして結果を得るものではないため、そのように説明し理解を求めている。相手を説得しようとしても理解は得られないので、そこは注意する必要がある。

Q：量の研究でも純粋な関連をみる場合、あえていろいろな要因を入れて固まりで見ないと真実は見えない。結局は現象を見るのと同じだと感じた。

A：数を研究する場合は1例では認められないが、人の経験を研究する場合、経験は数値に換算できない。1事例をどう扱うかということになる。

Q：そのような考えで言えば、同じ条件の下のnならば、 $n=1000$ であっても $10000$ であっても「 $n=1$ 」ということが当てはまると思う。

A：今後ぜひそのような考え方を使わせていただきたい。

Q：臨床で患者を接したときに、データを見ると数値は悪いのに患者は回復しているように感じる。

A：現場の看護師と接したときに、データは悪いのに患者の今の状態を見て、今後回復していくことを予測している看護師がいた。看護師は未来の情報を先取りしてアセスメントしていることがある。データそのものと自分のアセスメントを合わせていくよりは、何がずれているのか、どのようにしてずれが生じているのかなど、ずれた自分を振り返ることによって、何か傾向が見えてくるかもしれない。